

<編集発行>

for The Value Stage

アーク&パートナーズ®



弊社会保険労務士法人代表 黒川健吾 儀

去る令和2年8月18日、

享年53歳にて永眠いたしました。

お客様や関係者の皆様におかれましては、

生前のご厚誼に深く感謝申し上げます。

本号は黒川との思い出を偲ぶ特別号と称し、

各パートナーからの追悼文を掲載させていただきます。

黒川さん、ありがとう



社会保険労務士法人
相談役

吉田公明

あまりに突然のことでスタッフ一同、大変ショックを受けております。ご遺族の悲しみはいかばかりかとお察し申し上げます。ここに慎んでお悔やみ申し上げます。

私と彼との出会いは今から17年ほど前のことになりました。ある方から「まだ若いのに銀座の立派なビルで開業しているすごい社労士がいる。今度、公明さんに紹介するよ」というお話をいただいたのがきっかけでした。その後、これからの社労士のビジネスチャンスの研究や開拓、401Kの導入支援などを一緒に行なってきました。その縁で私の事務所の事業継承の方法としてアーク&パートナーズへの統合に至りました。

皆様ご存じのとおり、黒川さんは質の良い情報を収集して将来のビジネスプランを作り出すという高い創造力、古い業

態と見られがちな土業の事務所にもかかわらず事業全体を数値化してマネジメントするという発想など、私にとっては驚くような経営能力を有していました。また仕事に対して常に真摯に取り組むとともに、周りの一人一人に気配りし、人を引きつける人間の魅力のある人でした。

私連にとって黒川さんを失ったことは大変な痛手です。しかし彼は多くの優秀なスタッフと誇り高いアーク&パートナーズの精神を残してくれました。これから新しい体制になりますが、彼の遺志を受け継ぎ、税理士法人、司法書士事務所との連携による強みを活かしながら、お客様の満足度向上、社会への貢献を継続、発展させていきたいと存じます。

皆様の益々のご指導、ご鞭撻のほど引き続きお願いいたします。

追悼



社会保険労務士法人
本社代表・社労士
碓井 健一

1997年4月1日、初めて会った日のことを鮮明に覚えています。

私は前職での初出勤日、かかってくる電話の全てに出ることを密かに決めていました。先輩方をまねて電話を受け、メモを残し、午前中が終わりました。外出先より戻った黒川は私の電話メモを手「俺の電話に出てくれてありがとう」と言ってデスクに戻っていきました。瞬間、私の未来が決まりました。

出会いから6か月後、黒川は独立し、独立から1年半後の1999年2月、私は黒川より「来るか」と声をかけられ、「行きます」と答えます。

1999年4月、日常が一変します。

黒川のお客様を獲得していく勢いはすさまじく、私は圧倒されるばかりでした。その勢いに追い付くため私の日常は一変、ネオンが消えた銀座の街を駅へと歩きながら、今までの経験が通用しない、とんでもない場所に来たことを実感しました。

実際、社会人としての常識も、たいした実力もない私を、

黒川は諦めることなく、社会保険労務士となれるよう指導してくれました。

黒川さん、出会いから23年になります。

2人分の席がなく、外出している人の席を探して座っていた時代がありましたね。大雪が降り帰宅できない私が遅くに押しかけ、食事をご馳走になり、ご家族の寝室を独り占めして熟睡したことを覚えていますか。上海出張の際、「1人部屋はちょっと嫌だな」と、まさかのツインルーム、あれは何だったのでしょうか。何もかもが、このまま続くものだと疑っていませんでした。

黒川さんが亡くなり、その存在の大きさを改めて実感しています。「黒川さんがいるから大丈夫」とは言えなくなりました。次は、「碓井がいるから大丈夫」と思っていただけにならないといけないですね。同じことはできませんが、職員一人一人が自立して業務に励めるような事務所を目指し、教えて頂いたことを忘れずに精進します。

黒川さん、長い間お世話になりました。本当にありがとうございます。

緒に香港にも出張しましたね。難しい交渉でしたが、ホテルのバーでは、将来の夢を語っておられました。秩父宮ラグビー場で、お客様のラグビーチームの外国人選手の応援もしましたね。リーグ戦で優勝した時には、自分のこのように喜んでおられました。

また、黒川さんは、凄腕の社労士であると同時に、良き家庭人でもありました。特に二人のお嬢様の教育には熱心で、ランチにパスタを食べながら、どの学校のどこが優れているか、滔々と語られていたことを覚えています。深い愛情を感じると共に、お昼にパスタばかり食べていることを気にしている黒川さんが、微笑ましかったです。

まだ、黒川さんが亡くなったことを現実として受け止めることは難しいですが、一緒に仕事をしてきた仲間へ、ご遺志をしっかり引き継いでいきたいと思えます。

黒川さん、どうか安らかにお休みください。そして、思う存分、大好きなパスタを召し上がってください。



税理士法人
代表・税理士
内藤 克

私が彼と出会ったのは今から20年前、彼がまだ銀行系の派遣会社に営業を行っていた時でした。社労士になるためにその会社を一度退職し、試験合格のうちに社労士事務所を経験を積んで復職したのです。当時税理士事務所を開業したての私はその会社がアウトソーシング事業部を立ち上げるということで呼ばれ、彼に派遣と請負の違いから説明した記憶があります。銀行系の会社であったためアウトソーシング先も大手が多く、工数の見積りが難航しました。派遣であれば時間でチャージすればよいのですが、請負で見積りを間違えると大赤字になってしまいます。また、ミスを犯すと責任問題にもなります。

私達が取り組んだのは経理、社保手続き、給与計算など管理業務のアウトソーシングでしたが、当時は依頼先の社員を転籍により受け入れたのち請け負うリクエストが多かったため転籍社員のモチベーション維持も大変でした。経験を積むうちにアウトソーシング業務は現状の業務フローをそのまま生かすのではなく、一度壊

してムダを排除してから受注しないと付加価値が生み出せないことがわかりました。最近のRPAの導入における、ムダな工程をロボットに速く作業させるだけでなく、効率化してから導入すると効果は抜群という考え方と同じです。

さらに「失注しても報酬をいただける仕組み」として、「一日診断（業務フォロー改善コンサルティング）」を思いつきました。有料で工数を把握し、失注してもコンサルを受注するのです。その後、彼が合流して「オーナー企業向けのワンストップコンサルティング事務所」ができ上がり、現在に至っております。

約20年間、いろいろ議論もしましたが、亡くなる直前の彼の誕生日にSNSで「この一年もよろしく」とつぶやいたら、「ずっとずっとよろしく」と返ってきました。単なる社会保険の専門家でなく、サービスをビジネス化できるセンスを持ち合わせていただけに彼が亡くなったことは残念でなりません。



社会保険労務士法人
国際業務課ディレクター
米国税理士
成田 元男

去る8月18日、社会保険労務士法人アーク&パートナーズの代表社員、多くの方々にとっての親しい友人、そして良き夫・父親であった、黒川健吾さんが亡くなりました。7歳も年下の黒川さんの追悼文を私が書くことになるとは、夢にも思いませんでした。

今から20年ほど前に、旧アークのメンバーで新事務所立ち上げの打ち合わせを銀座で行った際、黒川さんにお好み焼きを焼いていただいたのが、つい先日ようです。その後、7年前に、仕事を手伝って欲しいので、また一緒に仕事をしましょうと声を掛けていただいた時は、とても嬉しく、光栄でした。

当初二人で始められた事務所は、驚くほど大きくなっていました。その後一緒に仕事をする中で、果敢に新しい分野に進出し、ICTを駆使しながら、抜群のビジネスセンスで業務をさらに拡大していき、お客様から絶大な信頼を得ていかれる様を、目の当たりにしてきました。

国際業務を拡大したいということで、提携交渉のため一

黒川ちゃん、君は本当にいないのか。在宅で仕事をしているだけではないのか。いまだに信じられない気持ちでいっぱいです。

初めて会ったのは、2000年の夏、いろいろな資格の事務所を合同事務所にしようと誘われた時だったかと思います。正直、初めて聞いたときは実現できるとは思ってもいませんでした。

その話が本気だと知ったのは、その年のボージョレーヌーボーの季節、伊豆へ旅行に行ったときでした。行ききの踊り子号で、車内販売のワインを飲みつくす、のんべえのメンバーを見てびっくりしているようでした。その時はじめて、黒川ちゃんは酒があまり飲めないのだと知りました。

その旅行で合同事務所の骨格は出来ましたが、私のなかでは、いまだ決断はできない状態にあり、何度も電話をしてきて、熱心に誘ってくれたのが懐かしいです。

その後、2001年夏にアーク・グローバルコンサルティングを設立して、現在に至っております。この最初の吉澤ビルのとときには、社労士事務所と司法書士事務所が隣同

士での配置でしたが、黒川ちゃんの電話の多さには本当に驚かされました。

私のなかでは、黒川ちゃんといえば、いつも仕事をしているか、新しい仕事の話をしているかというイメージが強いのです。アーク&パートナーズで大阪や沖縄等へ社員旅行にいったこともありましたが、そのなかで、山梨県に日帰りバス旅行にいったときが、いつもの仕事をしている雰囲気ではなく、とてもリラックスしていて、楽しそうな表情をしていたのが思い出されます。

もしかすると、私が最後に会ったのは、今年の5月くらいだったかと思えます。私は3月に膝の手術をして、3週間ほど松葉杖がかかせませんでした。その後なんとか歩くことができるようになったころ、東京交通会館の通路で「だいぶ治ってきたね。いい調子だね」と声をかけられて、話をしました。いつも気を遣ってくれるのが彼らしい言葉でした。

ここでは書ききれない思い出がたくさんあります。本当にありがとうございました。どうか安らかにやすみください。



西田司法書士事務所
司法書士
西田 誠

■ 社労士法人新体制のご案内

本社

代表社員 碓井 健一

代表社員 戸澤 摂子

新宿オフィス

代表社員 竹之内 弘勝

相談役 吉田 公明



碓井 健一



戸澤 摂子



竹之内 弘勝

新体制のもと、一丸となってより一層お客様のご期待に添えるよう努めて参ります。

■ アーキストの今後のお届けについて

創刊以来、冊子での郵送でしたが、より広く早く情報をお届けするために順次メール配信に切替いを予定しています。切替いの時期等につきましては別途ご案内いたします。

■ 新型コロナウイルス対策 給付金・助成金等の締め切り期限迫る

新型コロナウイルス対策における国民1人当たり10万円の特別定額給付金について、各市区町村で順次期限を迎えたことは記憶に新しいですが、その他給付金等についても順次期限を迎えますので申請漏れ等にご注意ください。主な給付金の申請期限は下記の通りです。

- **持続化給付金** 令和3年1月15日(金)まで
- **家賃支援給付金** 令和3年1月15日(金)まで
- **雇用調整助成金** 支給対象期間の最終日の翌日から起算して2ヶ月以内
※要件緩和のある緊急対応期間は令和2年4月1日～12月末までの休業が対象です。(令和2年8月28日時点)

<編集発行>



〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館11階
 税理士法人 TEL:03-6551-2535/FAX:03-6551-2534
 社労士法人 TEL:03-6551-2540/FAX:03-6551-2541
 司法書士事務所 TEL:03-6551-2533/FAX:03-6551-2534
<https://s-arc.com/>

税理士法人・社労士法人は
Facebookにて
最新情報をお届けしております。



お待ちしています♪

